

社会保障審議会 介護保険部会（第45回）	高杉委員 提出資料
平成25年6月6日	

介護保険部会における検討事項について

平成25年6月6日
社会保障審議会介護保険部会
委員 高杉 敬久

意見書

1. 地域包括ケアにおいて、ケアマネジメントが重要な鍵である。しかし、ケアマネジメントが必ずしも利用者の状態改善に功を奏していないケースも散見される。今後、地域におけるケアマネジメントの質向上のため、地域ケア会議を活用する事となっており、医療職も参加することになっている。関係者が地域ケア会議に参加することの価値を見いだせる内容となるよう、会議自体の質の向上を図ることが喫緊の課題である。
2. 介護予防は重要な取り組みであるが、地域において医師の不足や地域間格差などが起こっている現在、地域包括ケアをより実効性たらしめるためには、現実を直視した施策が必要であり、そのような視点を持って部会での議論がすすめられるべきである。
3. 認知症のケアにおいては、オレンジプランが策定され、今後5年間精力的に進められることになっているが、地域で認知症の方を支えていくには医療の役割が重要であることは言うまでもない。日本医師会でも認知症を診るかかりつけ医の能力向上に取り組んでおり、制度上、かかりつけ医の活用を十分に図るよう要望する。

以上